



*まつん&ハマーの



乳がん検診掲示板

乳がん検診 Q&A

～まつん・ハマーの知って得する乳がん検診～

香川県診療放射線技師会では検診啓蒙活動として毎年市民講座を開催しています。そこで、実際に市民の皆様とお話して気付いた「みんなの誤解(その1)」についてまとめました。

乳がん・乳がん検診 みんなの誤解(その1)

その1

乳がん検診を受けていれば早期に見つかる。

マンモグラフィや超音波の高精細な画像検査で触知できない初期の乳がんが発見できます。

※1
例外・・・乳がんのタイプ、中間期乳がん(検診陰性乳がん)の存在



その2

マンモグラフィを受けていれば大丈夫!

「異常なし」には「見えなかった」も含まれます。

※2
デンスブレスト(乳腺濃度の高い乳房)、ブラインドエリア(見えない部分)でマンモグラフィではがんを見つけられない可能性があります。必要に応じて超音波検査の併用をお勧めします。



その3

乳がんは遺伝で発症する!

遺伝で発症する乳がん(遺伝性乳がん、卵巣がん症候群)は乳がん全体の10%以下といわれています。90%以上は遺伝と関係なく発症しています。



その4

授乳中は受けなくてもいい

授乳中(1年)は超音波検査で!

40歳以上の方は産後1年を過ぎると普通通りの検診を受けてください。



その5

閉経後の肥満は乳がんのリスクである。

閉経後、女性ホルモン(エストロゲン)は皮下脂肪で作られます。肥満は万病の元。気を付けましょう。



※1
中間期乳がん(検診陰性乳がん)とは

次の検診を待たずに大きなサイズで発見される乳がんのことです。マンモグラフィ検診の課題の一つといわれていて、減らさなければならぬ乳がんです。

特徴

悪性度、再発率が高く、治療方法がないタイプが比較的多くみられ、急激に発育します。検診のタイミングが大きく影響します。

対策

超音波検査の併用が有用とされています。

※2
ブラインドエリア(見えない部分)とは



胸郭は湾曲しているため、写しこもうとすると乳房の全てが入りきらず、描出もれが生じます。矢印の部分は写りにくいところです。



次回は乳がんと女性ホルモン、発症リスクについて考えていきます。

